第 117 号　2018 年 9 月 30 日

東日本大震災 復興･支援活動ニュースレター
カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL022-222-7371　Fax022-222-7378
1）義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2）支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

東北では、実りの秋を感じる季節となりました。震災後、サンマや秋サケなど漁獲量が減少し、昨年は歴史的不漁となりましたが、今年は三陸沿岸の漁港に活気が戻っているように感じます。また、梨やぶどうなど福島県を中心においしい果物が出荷時期をむかえ、これからはおいしいお米の収穫時期となります。自然災害が多く、支援を必要としている方が各地におりますが、被災地の特産物を購入する、その購入したものを求めている他の被災地へ送るなど、様々な支援の形が考えられます。それぞれの被災地に思いを寄せながら、支援の輪がつながっていくことを願っています。

今回は、８月下旬に行われました夏祭りの様子を含めてカリタス南相馬からの現状報告、カトリック東京ボランティアセンターが関わりをもっている宮城県山元町の曹洞宗普門寺で行われた「てら茶房夏祭り」の様子、そして、八木山オリーブの会の 130 回目となる亘理町でのお茶っこの様子をご紹介します。東日本大震災から７年半が経過しましたが、支援活動が継続的に行われていることに感謝いたします。

カリタス南相馬の現状報告

カリタス南相馬　所長　畠中　千秋

先ず、「屋外活動」に関しては、2013 年４月から活動していた南相馬市小高区の社会福祉協議会「災害復旧復興ボランティアセンター」が、2018 年２月に閉じられました。一方、2017 年５月から住民の方々の要望に応えて「屋外活動」が始められた浪江町社会福祉協議会「災害復旧復興ボランティアセンター」では、現在も、家屋の内外の整備・草刈・木の伐採などの活動があります。カリタス南相馬には、今でも「屋外活動」を希望されるボランティアの方々にお泊りいただいています。

屋外活動の様子

仮設住宅や集会所が閉所・解体・さら地になってきました。仮設住宅から、ご自宅に戻られた方、復興住宅に入居された方、新築移転された方、そして、家族構成に関しても、十人十色の苦渋の選択が見受けられます。三世代・四世代がともに暮らしていた有様から、世代別に暮らす在り方に変化しています。それぞれの選択を決めざるを得ないことになった要因が「原発事故」の場合は、いまだに心の落ち着く場所を見つけることが出来ません。

多目的室でのサロン活動の様子

「サロン活動」は、その心の拠り所となっています。毎日の生活のリズムに組み込まれながら、生きがいにもなってきています。仮設集会所での「眞こころサロン」の方々が仮設集会所の閉鎖になる頃に、とにかく集まる場所が必要という要望に応えて、カリタス南相馬の１階多目的室をサロン活動に使っていただくことになりました。

地元の方々と全国各地・世界から来られるボランティアの方々との交わりの場にもなっています。参加された若いボランティアの方の言葉には、「ここは、田舎のおじいちゃん・おばあちゃんの家のような感じです。また来たいです。」「核家族」とは異なる「大家族」に包まれて、心が癒される方々も少なくありません。時々、さゆり幼稚園の預かり保育の園児たちも、参加するようになりました。遠くにいるお孫さんのことを思い出したり､懐かしく思われるのでしょう､高齢の方々の顔がほころび、目が細くなります。

８月２５日（土）に、カリタス南相馬の夏祭りを催しました。相馬野馬追いの時と同様に、ほら貝の演奏で始まりました。さゆり幼稚園の園児・家族、町内会の皆様、教会の皆様、今までの関りある方々が次々とやってきてくださいました。眞こころサロンをはじめ、社会福祉協議会を通しての様々なサロン活動を通してお世話になった方々も来てくださいました。準備した食券も見る見るうちになくなっていきました。200 食を想定していましたが、実際には 300 人程の方々が来てくださったようです。

思い思いに浴衣やコスプレ風のかっこうをした、幼稚園の子どもたちも「音楽の時間」で練習をした歌や踊りを披露してくれました。日頃の関わりの積み重ねの大切さをしみじみと感じる時でもありました。最後は、80 歳を超える年季の入った地元の方の歌声にのり、相馬盆踊りで 2018 夏祭り＠カリタス南相馬の幕を閉じました。

地域の方々と支え合い、共に生きる力をお互いにいただき、来年の夏祭りに期待が膨らみます。

受付に次々と訪れる方々

大人気の浪江焼きそば

円になってみんなで盆踊り

子どもたちと共に歌う

みんなが集う夏祭り　山元町「てら茶房夏祭り」

カトリック東京ボランティアセンター(CTVC)　山﨑　恵

宮城県山元町花釜区の曹洞宗普門寺は、東日本大震災の津波によって本堂の柱と屋根だけが残りました。周辺は危険区域に指定され、震災から１か月後の檀家さんとの会議でお寺の取り壊しが決まりましたが、ご住職の熱意と全国からの応援によって再建されました。

その後も沿岸部ににぎわいを取り戻そうと、お寺では数々のイベントが行われてきました。私たちもたびたび訪問してはお話を聞かせていただいたり、ゴスペルコンサートやワークショップを開催したりしながら地域の方々との交流を続けてきました。

晴天の中、地元ゆるキャラも登場して大にぎわいだった「てら茶房夏祭り」

８月 25 日に行われた「てら茶房夏祭り」は、地域住民と全国からのボランティアが一堂に会す大イベントとなりました。

当日は朝から日差しが強く、猛暑日が予想されました。私たちが会場に着くと、50 人もの学生ボランティアが準備を始めていました。山元町での活動を継続的に行っている IVUSA（国際学生ボランティア協会）の大学生たちです。CTVC のブースにも２名がお手伝いに入り、手際よくレイアウトを考えてくれました。マリアの宣教者フランシスコ修道会（FMM）のシスター3 名もお隣の亘理町から駆けつけ、開会を迎えました。

本堂ではリラクゼーションコーナーや作品展示などがあり、屋外ではステージでのライブに飲食ブース、手作り品の販売など、催し物が盛りだくさんでした。輪投げと射的のコーナーでは、子どもも大人も盛り上がりました。また、西日本豪雨被災地支援のためのチャリティバザーも行われました。

【CTVC ブース】福島物産紹介や写真展示を行いました

【他のブースの様子】　　輪投げを楽しむ FMM のシスター

CTVC のブースでは、山元町での活動やカリタス南相馬の写真展示と福島物産の紹介などを行いました。学生ボランティアさん２名は私たちスタッフやシスター方とすぐに打ち解け、ブースは笑いの絶えない明るい雰囲気に。彼女たちの呼びかけで多くの方にお立ち寄りいただきました。亘理教会の方々や活動でつながった方々も足を運んでくださり、うれしい再会のひとときを過ごしました。

午後になって少し落ち着いてきたころ、「シスター！」と元気な呼び声が聞こえました。亘理カトリック保育園の園児さんとご家族が、亘理教会に貼っていただいたお祭りのポスターを見て遊びに来てくれたのです。子どもたちの訪問でブースがまた活気づきました。

フィナーレには亘理町と山元町のゆるキャラ「わたりん」「ホッキーくん」がステージに登場し、地域の方々が歌う応援ソングでお祭りは終了しました。

今回の夏祭りのテーマは「みんなでおいで」でした。山元町の住民か、お寺の檀家か、被災者かボランティアか。そのような枠を超えて、誰もが集まり、楽しめる場を作ろうという挑戦が続いています。私たちもこの場所で多くの方々と出会えたことに喜びを感じた１日でした。

オリーブの会　１３０回！

カトリック八木山教会　オリーブの会　　野田　和雄

私たちオリーブの会は、最初、カトリック八木山教会を中心に、亘理の仮設住宅を訪問し、お茶っこなどの活動を始めました。しかし、復興住宅が完成し、仮設に住んでおられた多くの人が転居され、仮設が閉鎖されたことにより、カトリック亘理教会を会場に、これまでの集まりを始めました。

ここで津波被災者と交わり、復興住宅の孤独に向き合っている人々への傾聴を続けています。回数は月２回から１回に減りましたが、被災者との絆を守り、共に歩んでいます。

活動が７年目となると、被災者とボランティアの心の垣根も低くなり、教会ににぎやかな笑い声がいっぱいに響きます。

今回は、オリーブの会 130 回の節目と天の元后聖マリアの祝日が重なりました。この日は、亘理教会の献堂記念日でもあり、保護を仰いでいる聖母マリアの祝日ということで、８月 22 日、オリーブの会の「はじめの祈り」は、祭壇を出してニコ神父が祭服を着て荘厳に行いました。

はじめの祈り――普段のオリーブの会は、亘理教会の長嶋治夫教会委員長の「あいさつ」で始まるのですが、この日はニコ神父のお祈りで始まりました。

これまでの被災者とボランティアの交流の恵みを感謝するとともに、オリーブの会の活動を通して知り合い、亡くなられた方々を思い起こし、しのびました。さらに、マリア様に献げられた亘理教会と八木山教会の協働の上に、神様のご保護と助けをお願いしました。

被災者の方々も、これまでの歩みを思い起こし、手を合わせてお祈りをささげてくださいました。

祈りが終わると、聖堂の祭壇を収納し、机を並べ、手仕事会場に変身です。ニコ神父も祭服からインドネシアの民族衣装に変身！

今月の手仕事は、匂い袋です。袋はかわいいクマの形をしています。ポプリの香りが漂う中で、まず、クマの生地を選びます。リボンとの組み合わせは好みに応じて選びます。匂い袋を作り始めると、オシャベリも花盛り。

男性は囲碁将棋の勝負に夢中になっています。時々、笑い声や歓声が上がる中で交流の輪が広がっていきます。

手仕事や囲碁将棋を楽しむ参加者たち

被災者、スタッフ併せて 30 人以上が、手仕事、囲碁将棋、台所での昼食準備と動いています。今日は 130 回目の特別メニューということで、お餅をついています。餅つき器 2 台がお餅をついているそばでは、お雑煮、きな粉、納豆の準備をしています。お雑煮には、肉や野菜がたっぷり入り、秘伝のつゆがおいしそうな匂いを出し始めました。手仕事が一段落すると、作品を見せ合います。お孫さんにあげる人や、うれしそうに、自分の作ったクマの香りをかぐ人もいます。

食事はきな粉、納豆、お雑煮の椀が並ぶと、囲碁将棋は強制的に終了です。将棋盤の後に、デザートのケーキやコーヒーゼリーが並びます。

亘理と八木山の教会協働に加え、修道会や東京教区の教会の応援のお陰で、豊かな食卓となりました。

ニコ神父様による「食前の祈り」

大きなお餅を持って素敵な笑顔の参加者　その姿をみて笑顔になる方々も

「食前の祈り」を待ちきれない人が出るころ、ニコ神父の祈りの言葉が響きます。被災者の方に、すっかりなじんだお祈りです。皆さん、手を合わせて「いただきま～す！」。おいしさと楽しい会話が会場に広がります。「おかわりあるの？」「これ、おいしい」「私はこれが好き」と会話もはずみます。

亘理教会の台所には、亘理と八木山のご婦人たちが仲良く、調理、盛りつけ、食器の回収などを手早くしています。こちらのチームプレーは、すでに完成されているように、無駄のないスムーズな動きです。

食器の回収とテーブルの上が片づいたら、Sr.内田が準備してくださった「オリーブの会 130 回の記録　スライドショー」の始まりです。2012 年 3 月からのオリーブの会の歩みが思い出される写真が次々と出てきます。お花見、ファッションショー、いも煮会、クリスマス会、落語会となつかしい思い出です。その中で、亡くなられた 3 人の元気な笑顔には、切なさと懐かしさを感じ、胸がいっぱいになりました。ボランティア側にも、病気療養中の人もいるので、元気だったころの輝きを思い出しています。お盆から間もない時でもあり、良い供養になった、と思います。

お別れに、仮設住宅の集会所で使っていた「歌集」が役立っています。なつかしい歌を歌って、元気にお別れしました。

毎回行っている「スタッフの分かち合い」は、これまでの歩みと恵みへの感謝が続きました。それとともに、これからの歩みへの提案や支援に対する感謝もありました。私たちの 2 教会の協働によって、被災者と理想的な関係を築けたことは、多くの祈りと支援のお陰だと感謝しております。

懐かしいスライドショーの写真をみて自然に笑みがこぼれる参加者たち

みんなで歌を歌って元気にお別れ

～～～